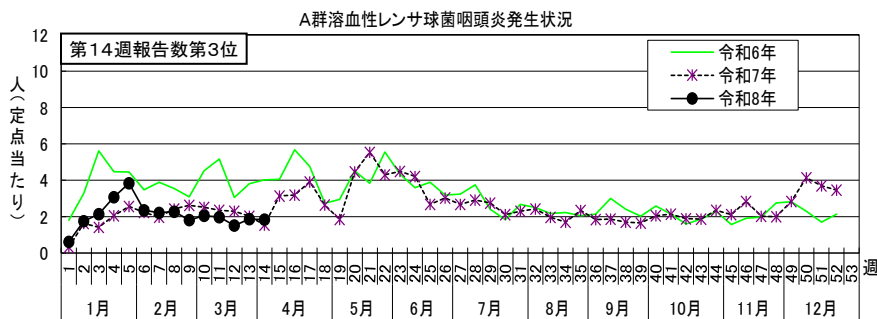
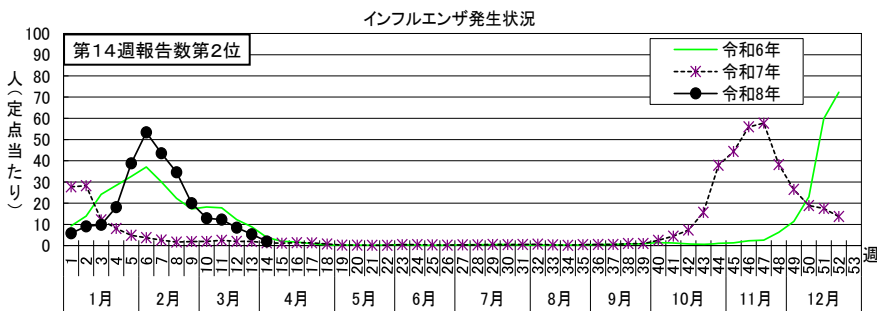
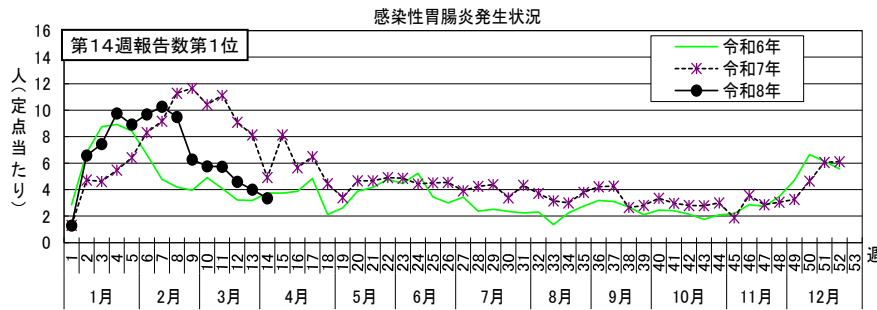


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年3月30日（月）～令和8年4月5日（日）〔令和8年第14週〕の感染症発生状況

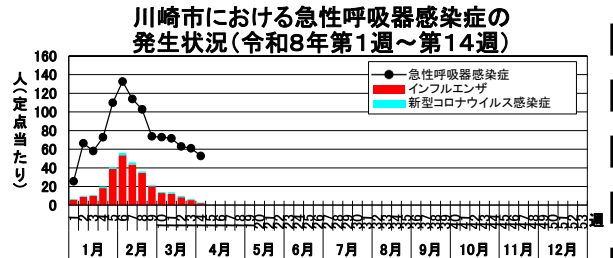
第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.35人と前週（4.05人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.00人と前週（5.36人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.84人と前週（1.92人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



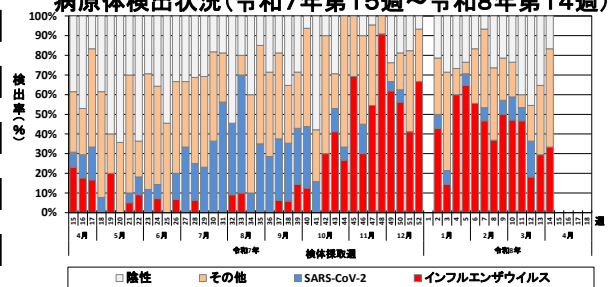
急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの実施状況

我が国では、令和7年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されました。川崎市における定点当たり報告数は、年間を通して概ね70人前後で推移していましたが、インフルエンザの流行時期は定点当たり134.17人まで増加しました。

健康安全研究所には、令和8年4月5日までに計748件の検体が搬入され、このうち550件（73.5%）から病原体が検出されました。インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスだけでなく、季節によって様々な病原体が検出されており、市内の流行状況を反映していました。特に、令和8年3月以降はヒトメタニューモウイルスが多く検出されています。



川崎市における急性呼吸器感染症の病原体検出状況（令和7年第15週～令和8年第14週）



川崎市においてARIの検体から検出された主な「その他」の病原体

【ヒトパラインフルエンザウイルス】

小児の急性呼吸器感染症の主要な原因ウイルスであり、鼻炎や咽頭炎、気管支炎等を起こすが、多くは自然に軽快する。令和7年は4月から7月に検出数が多かった。

【ライノウイルス】

鼻閉やくしゃみ、咳等を起こすウイルスで、喘息を増悪させることもあるが、多くは軽症にとどまる。令和7年は年間を通して検出されたが、特に4月から6月及び9月から11月に検出数が多かった。

【ヒトメタニューモウイルス】

発熱、咳、鼻汁等の症状がみられ、高熱が平均5日と長く続くが、症状は1週間程度で改善する。令和8年3月以降多く検出されている。